

## 2023年新年年頭所感

日本製紙連合会会長 加来 正年

2023年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、引き続き新型コロナウイルス感染の数次にわたる拡大やロシアのウクライナ侵攻、そして世界的規模のインフレの進行等、社会経済を取り巻く環境が目まぐるしく変化する1年となりました。

我が国経済は、年初のコロナ感染第6波では全国的にまん延防止等重点措置の発令があったものの、夏の第7波以降では特別な行動制限を課すことはなく、感染抑制と経済活動の両立が進められました。また、10月以降は水際対策が緩和されたことで、インバウンド需要も回復しつつあります。実質GDPは、四半期毎にコロナ感染の波の影響を受けプラスとマイナスを交互に繰り返す状況となり、回復への加速感には乏しいものの通年ではプラス成長が見込まれています。本年もコロナ感染症対策が進展したことで経済活動の一層の正常化が進むと予想される一方、資源価格、物価の上昇、世界経済の回復ペース鈍化による輸出減少といった景気下振れリスクがあり、先行きについては不透明な状況です。

こうした経済情勢の下、当産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。2022年の紙・板紙の生産、出荷はともに前年比ほぼ横ばいで、依然としてコロナ前の水準に回復するまでには至っていません。また、一昨年から上昇基調にあった原燃料価格は、ウクライナ侵攻による世界の資源情勢の激変に伴い急騰の一途を辿り、加えて急激な円安が拍車をかける状況となりました。特にエネルギー多消費型産業である当産業にとって、エネルギーコスト及び円安の影響は甚大であり、各社生産体制の見直しやコスト削減等の企業努力で吸収できるレベルを超えています。昨年、各社は多くの品種で価格修正を実施しました

が、コスト上昇分を補うには至らず、上場9社の2023年3月期決算は厳しい見通しとなっています。本年についても既に価格修正の発表がされている品種もありますが、業界各社が製品の安定供給を行うためにも継続的な再生産活動が可能な価格水準への是正は、市場経済を円滑に機能させていく上で重要な経済行為であると認識しています。

本年の紙・板紙需要に関しては、ウィズコロナによる経済活動の正常化やインバウンド需要の回復を背景に段ボール原紙を中心とするパッケージング用紙や衛生用紙などは堅調に推移することが期待される一方、デジタル化や人口減少といった構造的要因の影響を受けるグラフィック用紙は依然として厳しい状況が続くと考えられます。また、収益面においては、高水準で推移する原燃料価格、古紙原料の安定確保への懸念、為替動向等の不安定要素があり、特にエネルギー価格の動向が本年も最大のリスク要因になると考えています。

一方で成長が期待される分野もあります。昨年4月の「プラスチック資源循環促進法」の施行もあり、社会ではプラスチックから他の素材へのシフトが加速しています。この流れの中で、循環資源である木材から生産され、かつリサイクル可能な素材である紙への期待が益々高まっており、こうしたフォローの風を受け止め、新たな需要喚起へとつなげていくことが肝要だと考えています。また、新素材であるセルロースナノファイバーの用途開発をはじめバイオリファイナリー製品の開発にも各社取組んでおり、今後の需要開拓に期待が寄せられています。

日本製紙連合会といたしましては、産業の持続可能な発展へ向け、引き続き共通課題の解決に取り組むとともに、会員各社の経営努力が結実するようタイムリーかつ的確な環境整備や情報提供に努めてまいります。

具体的な事業としては、まず気候変動対策への対応があります。当会は昨年4月に「カーボンニュートラル行動計画」の2030年度エネルギー起源CO2削減目標について、2013年

度比で **38%**削減に強化しました。この目標達成に向けた取組を着実に進めていくとともに、その先の **2050** 年カーボンニュートラルの実現に向けても、工程表を策定し業界としての対策を一層強化してまいります。次にサステナビリティの取組に関しては、昨年より「日本製紙連合会サステナビリティレポート」を発行し、業界の取組についての情報発信を強化しましたが、今後は、業界の持続可能な成長に向けての基本原則等の取りまとめを検討し、業界が果たす社会責任の明確化を進めていきたいと考えております。

また、需給動向の的確な把握と公表の基礎となる統計業務や各社従業員の安全・安心な労働環境を維持するための労働安全活動、**2024** 年問題を目前に控える物流問題への対応、適切なサプライチェーン維持のための取引改善への取組み、さらに本年は、食品用紙・板紙に使用が認められる化学物質のポジティブリスト管理への対応等も重点活動として取組んでまいります。

本年は渋沢栄一翁によって抄紙会社が設立され、近代製紙業が興ってから **150** 年を迎えます。この **150** 年の間、当業界は常に時代の要請に応え、循環資源である木材から様々な紙・板紙製品を開発し、社会や文化の発展に貢献してまいりました。今後サステナブルな社会を目指す中、当産業の果たす社会的役割は益々重要になっていくと考えています。経営環境の厳しい状況が続きますが、各社が経営課題の解決や変革に取組み、成長軌道に乗せることで、本年が製紙産業の新たな一步を刻む良い年となることを祈念しています。

最後になりますが、関係各位の今年 **1** 年のご健勝、ご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

以上